

能界展望(平成二十六年)

著者	中司 由起子
出版者	法政大学能楽研究所
雑誌名	能楽研究
巻	41
ページ	171-179
発行年	2017-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/13119

能界展望（平成二十六年）

中 司 由起子

はじめに

平成26年「能界展望」も悲しい話題から始めることになってしまった。昨年の展望でも能楽界を牽引されてきた能楽師の悲報が続くことに触れられていたが、本年も3月の金春惣右衛門をはじめ、長年能楽界を支えてこられた方々が亡くなられた。惣右衛門氏の功績はあらためて述べるまでもないが、人間国宝として数々の舞台を勤められ、能楽三役養成会・国立能楽堂能楽（三役）養成研修等において後継者育成に尽力されてきた。太鼓方金春流22世家元として秘伝の手付の活字化や『金春流太鼓全書』等の編纂、レコード「能楽囃子体系」の監修出演などの革新的な仕事にも取り組んでこられ、これらの業績は能楽師養成だけでなく、研究教育の場でも今なおいかされている。12月には23世家元を継がれていた國和氏も57歳の若さで急逝された。今後の太鼓方金春流を担い、さらなる活躍が望まれていただけに残念でならない。しかし24世を継承された國直氏を応援し、國和氏を偲ぶ能の会が、能楽師の役籍と流儀を超えて行われるという。能楽界全体で一つの流儀の継承を支えていくことの重要性を感じた。

本年は東日本大震災から三年目の年でもあった。目に見える復興は着々と進んでいるようだが、人々の喪失感や不安といった見えないものへの対処は後回しになっているようにも思われる。実際のな援助も必要であるが、文化復興を目的とした活動もさらに行われるべきであろう。能狂言であるからこそできることもあるのかもしれない。能には鎮魂や懐旧をテーマとする作品、過去を懐かしむ亡霊の出現や昔の風景の再現が描かれる作品があり、それらを通して、ほんのひと時であつても人々の心の痛みに応えることができるのではないだろうか。平成24年「能界展望」にも文化復興への提言と主な復興能の会が掲載されている。能楽界の復興への取り組みを記録しておくことの必要性や、取り組みの継続を望む意味も含め、本年に行われた催しもあげておく。

◎2月10日福島県相馬市総合福祉センター。相馬市チャリティー能公演息吹の会。〈羽衣替ノ型〉（シテ山井綱雄）ほか。
◎2月11日名取市文化会館。名取つばさライオンズクラブ復興支援チャリティー公演息吹の会。〈羽衣替ノ型〉（シテ山井綱雄）ほか。

◎3月11日観世能楽堂。東日本大震災鎮魂と復興の祈りを込

めて―能と文楽。新作能(聖パウロの回心)(シテ観世清河寿)ほか。平成24年初演。

◎3月11日京都観世会館。第4回東日本大震災義援能。(経正替之型)(シテ河村和重)・半能(猩々乱)(シテ杉浦豊彦)ほか。

◎3月11日大槻能楽堂。第4回東日本大震災義援能。半能(石橋大獅子)(シテ赤松禎英)・(東岸居士)(シテ大槻文藏)ほか。

◎3月13日国立能楽堂。企画公演復興と文化。(福部の神勳)(シテ茂山千五郎)・(花月)(シテ香川靖嗣)。

◎5月12日広島護国神社特設能舞台。東日本大震災復興祈願―喜多流広島蠟燭薪能。(清経)(シテ大村定)・(昆布売)(シテ野村萬斎)・(黒塚)(シテ粟谷明生)

平成26年も数多くの催しがあったが、ここでは近年増えてきた講座やワークショップを伴う能会について述べておきたい。これまでも国立能楽堂の普及公演や個人の催しをはじめ、能の始まる前に解説がある会は多かったが、最近では解説を能楽師自身が行うことや、公演当日ではなく事前の日程に講座の形で行うなどの傾向が見られる。例えば観世会能楽講座・観世会荒磯能事前講座では、流儀の定例公演の演目を取り上げた事前講座が研究者と演者によって行われ、京都観世会の面白能楽館なども演者主体で催されている。早い時期から活動をしている「のうのう能」は、演者による解説や事前

講座の形式を定着させたともいえる。能楽師自身によることや、事前講座の形式で行われることが増えたのは、演者ならではの話を聞きたい、能楽や作品について深く知りたいという観客の要望に応えた結果であろう。その他の理由としては、能楽師が自らの演技やそこに込める思いについて、観客に直接に発信したいと考えようになったこともあるのではないだろうか。

筆者もこれまで事前講座などに携わってきたが、幾つかの問題点も感じている。講座の参加者は初めて能狂言を鑑賞する人たちなのか、または能の稽古を何年もしている人たちなのかなど、主な対象者が絞られていない場合もあるように思われる。講座の内容も、どのような事柄をどこまで解説するのか、対象者によって変わってくるだろう。対象者や内容について、能の会の主催者・能楽師・解説者(それぞれが重なる場合もある)が、会の目的を共有し、意見を交換できるような関係を築いておくことが必要なのではないだろうか。

初心者に向けた講座やワークショップは非常に多い。しかしそこに参加した人のうち、どの程度が実際に能楽堂に足を運び、リピーターとなっているのだろうか。もちろん実際の継続的な観賞に繋がらなくとも、能楽の良き理解者になってもらえるだけでも素晴らしいことではあると思う。今後は、講座の効果についても検証が必要であろう。外国人に向けた解説や講座、ワークショップはさらなる充実を求められている。

さまざま催し

【記念公演・特別公演】

◎国立能楽開場三十周年記念「月間特集・世阿弥生誕六五〇年Ⅱ」

1月7日素謡(翁) (シテ金春安明)・〈寝音曲〉 (シテ茂山七

五三)・〈当麻〉 (シテ本田光洋)

1月11日(鬼継子) (シテ佐藤融)・〈野守留之伝〉 (シテ豊嶋三

千春)

1月17日(雁磔) (シテ山本泰太郎)・〈井筒〉 (シテ梅若玄祥)

1月23日(呉服) (シテ観世清和)

1月30日復曲仕舞(玉水) (シテ観世鍔之丞)・復曲連吟(実方)

(シテ梅若玄祥)・〈西行桜杖之舞〉 (シテ大槻文蔵)

◎国立劇場おきなわ開場十周年記念特別公演

3月9日国立劇場おきなわ。〈呼声〉 (シテ山本東次郎)・〈道

成寺赤頭〉 (シテ坂井音雅)

◎遊行柳初演五百年記念奉納

3月19日金戒光明寺。〈遊行柳青柳之舞朽木留〉 (シテ観世清河

寿)

◎鏡仙会能楽研修所三十周年記念特別公演

4月26日(朝長) (シテ清水寛二)・4月27日(俊寛) (シテ小

早川修)・6月28日(野宮含掌留) (シテ鶴澤久)・9月27日(砧

(シテ西村高夫)・9月28日(花筐) (シテ柴田稔)

◎公益社団法人能楽協会九州支部第15回記念特別公演「ほお

ずぎ能」

8月24日大濠公園能楽堂。〈高砂八段之舞〉 (鷹尾章弘・鷹尾維

教ほか)ほか

◎横浜能楽堂舞台一四〇年祭・横浜能楽堂企画公演「明治八

年能楽の曙光」

12月23日横浜能楽堂。〈狐塚〉 (シテ野村万蔵)・〈蟬丸〉 (逆

髪宝生和英・蟬丸梅若玄祥)

【復曲・新作など】

◎新作狂言(安土城ひみつ会議)

2月23日日野町町民会館わたむきホール虹。おうみ狂言図鑑。

台本作成三千院高穂、演出茂山あきら、主催滋賀県文化振興

事業団ほか、出演茂山七五三ほか。

◎新作能(田道間守)

3月1日豊岡市民プラザ。豊岡市民プラザ10周年記念。脚本

田茂井廣道、監修林喜右衛門、演出梅若玄祥、製作「田道間

守」製作委員会、主催富岡市・富岡市教育委員会。シテ観世

喜正、ツレ田茂井廣道・林宗一郎。

◎新作狂言(今際の淵)

3月14日セルリアンタワー能楽堂。マリコウジ壺ノ巻。台本

作成・演出茂山童司、出演茂山正邦ほか。

◎新作狂言(諸白ヶ内)

3月14日セルリアンタワー能楽堂。マリコウジ壺ノ巻。台本

作成・演出茂山童司、出演茂山茂ほか。

◎創作能〔葛城〕

3月15日・16日京都府立文化芸術会館ホール。世阿弥生誕650周年記念企画。構成・演出味方玄、作曲西邑由記子。シテ味方玄、ワキ有松遼一、アイ網谷正美。

◎現代能〔始皇帝〕

3月20日国立能楽堂。鍊肉工房。作詞那珂太郎、演出岡本章、節付梅若玄祥〔補・観世鏡之丞、柴田稔〕、作調亀井広忠・大倉源次郎・藤田六郎兵衛・小寺真佐人。始皇帝観世鏡之丞、徐福山本東次郎。初演は平成15年12月23日能楽座主催公演テキストリーディング。

◎新作能〔霸王〕

3月20日岩村城址特設舞台。恵那市制10周年記念第30回いわむら城址新能。原案いわむら城址新能実行委員会、台本作成飯塚恵理人、監修・演出・シテ辰巳満次郎。

◎復曲能〔吉野琴〕

6月15日京都観世会館。第三回復曲試演の会。監修西野春雄、本文補訂・節付味方健、型付片山九郎右衛門、主催京都観世会。シテ片山九郎右衛門、ツレ味方玄、ワキ宝生欣哉。

◎新作狂言〔いたりきたり〕

8月7日近鉄アート館。春蝶・逸平の一緒に遊びまSHOW。台本作成・演出・出演茂山逸平。落語「権助提灯」による。

◎新作能〔恋の龍門淵〕

8月23日明科龍門湖公園特設能舞台。信州安曇野新能。台本作成青木道喜、安曇野新能実行委員会。出演青木道喜・宝生

欣哉ほか。

◎復曲能〔真田〕

10月18日平塚市中央公民館。第五回湘南ひらつか能狂言。「〔真田〕復曲検討会」加藤眞悟・安田登・高澤祐介・大倉慶之助・伊海孝充・丹羽幸江。シテ加藤眞悟、ツレ梅若泰志ほか、ワキ安田登。

◎新作小舞〔雪づくし〕〔雪逍遙〕

10月31日国立能楽堂。国立能楽堂企画公演古典の日記念「雪気色」。(雪づくし)作詞・作曲・作舞・舞い山野村万作。(雪逍遙)作詞・作曲・作舞・舞い山本東次郎。

◎創作狂言〔ヤマトタケルとオトタチバナヒメ〕

11月29日千葉文化会館。見る知る伝える千葉。台本作成・演出・出演小笠原匡、制作協力千葉大学。

◎新作舞囃子〔大銀杏〕

12月13日喜多能楽堂。第六回名曲能の会。原作・構成大江隆子、節付・制作大村定、シテ大村定。

【海外公演】

◎カナダ能公演

4月8日・13日モントリオール美術館・サイモンフレイザー大学・バンクーバー日本国総領事館公邸庭園。(羽衣)〔シテ山井綱雄〕

◎Japan theater シンガポール公演

11月14日・16日マリーナベイサンズマスターカードシアター。

半能(石橋)(シテ野村昌司)

◎「座・五華」はないつつ」ポーランド公演

5月14日〜20日ルブリン国際音楽祭KODY・グイド劇場。

半能(井筒・天鼓)(清水寛二・西村高夫・竹市学・鳥山直也・柿原弘和ほか)

◎日本大使館「日本文化・春の祭典2014 in Moscow」

5月15日ロシアモスクワ。ジャパンスピリット主催、在露日本大使館共催、NPO在日ロシア商工会議所後援。(羽衣)(シテ勝海登)

◎マケドニア(旧ユーグスラビア)外交関係樹立20周年記念行事 観世流橋岡會オーストリア公演

9月24日〜27日スコピエ。外務省主催。舞囃子(羽衣)・(高砂)(橋岡久太郎ほか)

◎カザフスタン公演

9月24日〜30日カザフ国立芸術大学・アルマティの民族楽器博物館。能楽の講義と短縮版(松風)(巻絹)(シテ勝海登)

◎オーストリア文化交流センターワークシヨップ能楽公演

9月30日・10月1日ウィーン王宮世界博物館。オーストリア日本大使館・ウィーン国際機関日本政府代表部主催。(葵上)(シテ橋岡久太郎)・(盆山)(シテ小笠原匡)

◎「講座・展覧会など」

◎「仮面フォーラムⅢ宗教芸能の深層へ」和歌山市立男女共生推進センター

1月11日フォーラム一部「よみがえる翁猿楽」「(翁)はいかなる芸能か―猿楽と呪師との関係をめぐって」宮本圭造、

「(翁)芸の生成―白拍子・覧病死をめぐって」沖本幸子、「翁猿楽における二つのたくらみ―(語りの翁)と(舞の翁)」宮嶋隆輔、「翁猿楽の諸問題―紀州からの視座」西瀬英紀、討議

コメント―藤井貞和・高橋悠介

1月12日企画展示見学会「仮面の諸相―乾武俊氏の収集資料から」大河内智之、フォーラム二部「行道する仮面たち―紀州東照宮祭祀に見る仮面の動態学」「仮面と祭祀」大谷節子、

「東照宮祭祀の渡り物と練り物」吉村旭輝、「和歌祭の面被り」大河内智之、討議コメント―宮本圭造

◎シンポジウム「定家のもたらしたもの―継承と変容―」

3月22日。日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画。

「百人一首」と定家」渡部泰明、「定家から正徹へ」村尾誠一、「金春禅竹にみる定家のおもかげ」味方健、「辺獄の歌人―謡曲『定家』から『明静』へ」ポール・アトキンス。コーディネーター石井倫子

◎藝能史研究会大会「芸論・芸談研究の最前線」同志社女子大学

6月1日。「茶の湯の雑談から茶の湯の説話へ」生形貴重、コメント矢野環、「世阿弥の芸論に見る義持時代の美意識―

冷え・さび・閑・しほれ」重田みち、コメント大谷節子、「文楽・太夫、三味線に聞く―稽古・伝承の視点から」後藤

静夫、コメント細田明宏、「芸談から読み解く『能』」羽田昶、

コメント伊藤真紀、「公開された近現代の芸談―文楽と上唱歌舞伎を中心に」森西真弓、コメント斉藤利彦、「講談の形式（続き読み・読切り・抜き読み）について―師・三代目旭堂南陵の言葉をもとに」旭堂南海、コメント中川桂

◎神戸女子大学古典芸能研究センターリニューアル記念公演「古典芸能研究の未来」

6月7日舞楽「蘭陵王」実演佐藤典久。講演会「古典芸能研究の未来」「中世芸能の視点から」大谷節子、「近世芸能の視点から」阪口弘之、「民俗芸能の視点から」川森博司

◎武蔵野大学能楽資料センター公開講座「能と妖怪―異界への招待」

7月10日「妖怪とお化け」徳田和夫、7月31日「鶴と頼政―『平家物語』と能に見る妖怪」観世鍔之丞・池田英悟、10月9日「能に登場する御霊たち―菅原道真と崇徳上皇」梅若紀彰・三田誠広、10月30日「能と鬼女―般若と山姥」鵜澤光・西哲生。11月13日創立90周年記念特別講座「狂言人生80年を語る」野村万作・聞き手羽田昶

◎東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「流行歌としての道行―『海道下り』を中心とした能・狂言歌謡の源流と広がり」―東京国立博物館平成館

10月18日。講演「宴曲（海道）の文学史―忘れられた流行歌謡―」岡田三津子、「放下の歌と能・狂言」高桑いづみ、実演「海道」から能狂言へ―《盛久》道行・《蟬丸》道行「放下の歌―海道下り・《放下僧》小歌」「小歌のいろいろ―小原木・《花

月》小歌」実演佐藤友彦・朝倉俊樹・日吉栄寿。

◎神戸女子大学古典芸能研究センター特別講座「場所の力―聖地・名所をめぐる伝承と芸能」

10月22日「沖繩における聖地と祭祀・芸能」高阪薫、10月29日「和歌と住吉の神」北山円正、11月5日「能楽における「場所の力」」大山範子、11月12日「文学と芸能の発生―折口信夫の視点―」川森博司、11月19日「説経・浄瑠璃における「場所の力」―『信太妻』を中心に―」阪口弘之、11月22日見学会「伝承のルーツを訪ねる―天王寺から熊野街道へ」川森博司・北山円正・阪口弘之

◎法政大学能楽セミナー「能楽の現在と未来」
『能楽研究』第四十号彙報参照

◎能楽写真家協会写真展2014東京展―平家残照

1月16日～22日。ポルトレートギャラリー日本写真美術館。

◎「生きている老松／山本浩二」古典と現代―能楽と現代抽象の対峙

3月21日～6月1日。金沢能楽美術館。

◎Theatre of Dreams Theatre of Play - no & kyogen in Japan - 国立能楽堂開場二十五周年記念国立能楽堂コレクション展
6月14日～9月13日。オーストラリア・シドニー、ニューサウスウェルズ州立美術館。

◎能面と能装束―みる・しる・くらべる

7月24日～9月21日。三井記念美術館。

◎新・古能面展 V

10月4日～11月3日。金沢能楽美術館。

◎加賀前田家ゆかりの「刀剣と能」武士の魂と身体小鍛冶
11月8日～2月22日。金沢能楽美術館。

◎平成26年秋季特別展「大名道具の世界―茶の湯と能楽」
9月6日～10月19日、10月21日～12月7日。野村美術館。

襲名・改名

シテ方観世流26世家元観世清和は、平成26年元旦より観世清河寿に改名した。

5月25日に小鼓方幸流18世家元幸正悟は隠居し、長男正佳が家元を継承した。

荣誉・受賞

◎重要無形文化財保持者(各個認定)梅若玄祥

認定理由「同人は高い技量をもって古典曲に優れた成果を挙げるとともに、復曲能や新作能の上演も数多く行っている。古典曲についても、従来演出の再検討を積極的に行い、能における表現の可能性を追究する活動をとおして、能楽界にと

どまらず広く演劇界を活性化させる舞台成果を示してきた。また海外公演も度々実施する等、能楽の振興普及のために寄与するばかりでなく、斯界の要職にあつて能楽界及び演劇界の発展に貢献し、後進の指導・育成にも尽力している」

◎重要無形文化財保持者(各個認定)三島元太郎

認定理由「能囃子方太鼓の技法を高度に体现するに至った同

人は、その後も平成2年「朝長懺法」、同5年「姨捨」など大曲を数多く務めるほか、復曲能や新作能における太鼓の作調でも実績を重ねてきた。また、積極的な舞台活動を展開するばかりでなく、斯界の要職を歴任し、能楽の発展に貢献するほか、長年にわたり後進の指導・育成にも尽力している」

◎文化功労者 宝生閑

◎日本芸術院会員 一噌仙幸

◎文化庁長官表彰 野口敦弘

◎芸術選奨新人賞 片山九郎右衛門

◎日本芸術院賞 柿原崇志

◎芸術祭大賞受賞 舞踊部門・関東参加公演 横浜能楽堂企画公演「琉球舞踊 古典七女踊」

◎手づくり郷土賞(国土交通省)山本能楽堂「ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり」の活動成果

◎観世寿夫記念法政大学能楽賞 森常好・高橋悠介

受賞理由、第四十号彙報参照。

◎催花賞 帆足正規

受賞理由、第四十号彙報参照。

◎日本能楽会

〔役員構成〕

《会長》野村四郎

《常務理事》観世清河寿・亀井保雄・金剛永謹・豊嶋三千春・

栗谷能夫・高安勝久・柿原崇志・山本東次郎

《理事》梅若玄祥・浅見真州・高橋忍・金春安明・武田孝史・

喜多六平太・宝生閑・藤田六郎兵衛・観世新九郎・荒木賀

光・金春國和・茂山千五郎・野村萬斎

《監事》小林与志郎・櫻間金記

《顧問》西野春雄

〔追加認定〕

シテ方―浅見慈一・浦部幸裕・遠藤和久・遠藤喜久・岡庭祥

大・角当直隆・加藤眞悟・観世喜正・久保誠一郎・小島英

明・鈴木啓吾・大松洋一・武富康之・田茂井廣道・津村聡

子・寺澤幸祐・橋本光史・八田達弥・坂真太郎・藤波重孝・

味方團・山中逐晶・吉浪壽晃・野月聡・大友順・小倉健太

郎・水上優・渡邊茂人・小倉伸二郎・松田若子・石黒実都・

佐藤俊之・今井克紀・豊嶋晃嗣・佐々木多門・大島輝久・友

枝真也

ワキ方―福王和幸・江崎敬三

笛方―相原一彦・槻宅聡

小鼓方―古田寛二郎・竹村英敏・幸正佳・曾和尚靖・森澤勇

司・荒木建作

大鼓方―亀井広忠・飯嶋六之佐・高野彰・柿原光博・石井保

彦・井林久登

太鼓方―麦谷曉夫・桜井均・上田慎也

狂言方―善竹隆司・山本泰太郎・山本則孝・野村又三郎・井

上松次郎・高澤祐介

〔会員数〕（平成26年7月現在）512名

◎能楽協会（会員名簿）平成26年版（二〇一四より）

〔役員構成〕

《理事長》野村萬

《副理事長》観世鏡之丞

《専務理事》本田光洋

《常務理事》武田宗和・香川靖嗣

《理事》一噌隆之・井上裕久・大倉源次郎・大藏千太郎・金井

雄資・観世元伯・観世喜正・國川純・種田道一・辻井八郎・

中村邦生・成田達志・廣田幸稔・藤波重彦・前田晴啓・森常

好・山本章弘

《監事》大塚和成・中村元彦・大和滋

《顧問》観世清河寿・金剛永謹

〔会員数〕1239名

シテ 観世416 金春106 宝生194 金剛80 喜多47 小計843

ワキ 高安16 福王16 宝生26 小計58

笛 一噌11 森田45 藤田4 小計60

小鼓 幸31 幸清9 大倉16 観世7 小計63

大鼓 葛野10 高安11 大倉9 石井10 観世2 小計42

太鼓 観世16 金春20 小計36

狂言 大藏77 和泉60 小計137

物故者

●大江照夫

太鼓方金春流。1月6日、肺炎のため逝去。享年80。昭和8年、芦屋市に生まれる。柿本豊次に師事。

●杉浦元三郎

シテ方観世流。1月14日、肺炎のため逝去。享年79。昭和9年、京都市に生まれる。片山博通と京舞井上流4世井上八千代の三男。22年、杉浦友雪の養嗣子となる。父および杉浦友雪、25世観世左近に師事。

●鵜澤 郁雄

シテ方観世流。1月17日、肺小細胞癌のため逝去。享年73。昭和15年、東京に生まれる。鵜澤寿の次男。浅見重信、野村四郎に師事。

●金春惣右衛門

太鼓方金春流宗家。3月11日、心不全のため逝去。享年89。大正13年、東京に生まれる。21世金春惣右衛門国泰の長男。本名、惣一。昭和11年舞囃子〈初雪〉で初舞台。17年宗家を継承。29年、惣右衛門國長を襲名。33年〈朝長懺法〉、43年〈道成寺〉を披く。平成4年重要無形文化財保持者各個指定(人間国宝)に認定。平成元年観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞、8年日本芸術院賞受賞、17年日本芸術院会員に就任。著書に『金春流太鼓全書』『金春流太鼓序之巻』(能楽書林)。共同監修にレコード・解説書『能楽囃子体系』。

●倉本雅

シテ方宝生流。3月24日、心不全のため逝去。享年83。昭和5年、大阪に生まれる。辰巳孝一郎、17世宝生九郎、辰巳孝

に師事。

●豊嶋訓三

シテ方金剛流。5月9日、多臓器不全のため逝去。享年82。昭和6年、京都に生まれる。豊嶋弥左衛門の養子となり、養父、初世・2世金剛巖に師事。

●幸正悟

小鼓方幸流18世宗家。8月24日、大腸癌のため逝去。享年73。昭和16年、東京に生まれる。幸宣佳の長男。父および幸祥光に師事。36年〈花篋〉(独調)で初舞台、45年〈道成寺〉を披く。

●清水利宣

ワキ方高安流。10月12日、腹部動脈瘤のため逝去。享年89。大正14年生まれ。清水松陰の長男。岡次郎右衛門に師事。

●水上輝和

シテ方宝生流。10月30日、食道がんのため逝去。享年71。昭和17年生まれ。宝生英雄に師事。

●橋岡慈観

シテ方観世流。12月11日、呼吸不全のため逝去。享年86。昭和3年生まれ。橋岡久太郎の次男。父に師事。

●金春國和

太鼓方金春流宗家。12月11日、脾臓がんのため逝去。享年57。昭和32年生まれ。22世金春惣右衛門の長男。父に師事。昭和43年〈羅生門〉で初舞台、51年〈道成寺〉を披く。